

## 令和4年度市民と議会との懇談会（分野別）実施報告書

### 1. テーマ

将来に向けた持続可能な畜産経営基盤の確立と強化を図ることを目的に、「畜産経営アクションプラン（指針）」を市で策定することに伴い、課題の把握や対応策について、市内の主要な畜産経営体及び関係機関・団体と意見交換を行う。

#### ■ 畜産経営アクションプラン（指針）で目指すもの

将来に向けた持続可能な経営基盤の確立と強化を図り、10年後、20年後も続く産地づくりを実現するための方策を検討するもの。市内370畜産経営体へのアンケート調査を基に、①経営目標に応じた適切な飼養規模、粗飼料生産面積、設備投資などのプランの提示 ②粗飼料生産の外部委託やスマート農業技術を活用した分業化・省力化の提案 ③遠野型コントラクター組織の提案を行う予定。

### 2. 開催日時

令和5年2月3日（金）午前10時

### 3. 開催場所

遠野市役所本庁舎3階大会議室

### 4. 参集範囲

主要な畜産農家、耕種農家、遠野市畜産振興公社、岩手県建設業協会遠野支部、遠野農林振興センター、遠野農林センター、遠野普及サブセンター、花巻農業協同組合営農部畜産センター、岩手県農業共済組合東南部地域センター、集落営農 柴高水田活用部会 代表 井坂守氏（アドバイザー）、(株)クボタ（アドバイザー）、遠野市、遠野市議会産業建設常任委員会

### 5. 多田市長挨拶要旨

- ・遠野市内の畜産経営は飼料高騰など非常に厳しい状況にある。個人の努力では解決しがたい事態。
- ・その中でどのような方策があるか、当事者、専門家の話を聞きアクションプランを作り上げたい。

### 6. 意見交換

畜産経営アクションプランの趣旨説明があり、参加農家の自己紹介と現状報告の後、経営計画策定や耕畜連携について(株)クボタ三上隆弘氏からの事例紹介、WCS(稲発酵粗飼料)について茨城県 芝高水田活用部会井坂守氏からの事例紹介があった。

(1)儲かる畜産経営、効率的な農地利用についての意見交換

- ・WCSの生産規模を増やしたとして補助はいつまで続くのか？
- ・新しい事業展開をするにしても個人で設備投資はリスクが大きく、連携するとどこが媒体になるのか？今は様子見がよいのではないか？
- ・水田活用の直接支払交付金が大きく下がり、今のままでは耕作地を借りるメリットがない。かといって返してしまえば所有者が困ってしまう。
- ・今16haの牧草地を管理しているが、10a～30aの区画であり効率が悪い。刈り取りのタイミングが難しい。
- ・10年前にWCSを勧められ、自分流で給餌していたら牛が体調不良を起こした。独自に進めると危険であり、マニュアルがあるとよいと思った。
- ・新規就農者へ経営移譲した際の優遇措置も必要と考える。
- ・個人経営、自家消費で補助金頼みでは物事が進まず、耕作放棄地が増えるばかりである。この先10年持つのか本当に厳しい状況であることを知っていただきたい。
- ・遠野にWCSを販売する農家はないかと問い合わせがあるが、農家間の情報共有がないと、分業化も効率化も進まない。
- ・粗飼料はロールにすれば需要がある。デントコーンも売り先確保が大事。
- ・遠野は個人経営が主だが、法人化を進めながら農地を集約して10～20年後を見据えるべき。

#### (三上氏アドバイス)

- 自分が楽しんで牛が働く仕組みを考えることが大事。WCSについては専用の刈り取り機が必要である。
- 経営計画をつくる際には自分のリタイヤ時期を明確にすることが前提である。
- 個々の農家に先祖伝来の土地という観念が根強く、農地集積、団地化の障壁になっている。耕作放棄地を増やさないためにも土地所有の概念を変えていかなければならない。
- キャトルセンターの機械の能力は充分であり有効活用を進めるべき。

#### (まとめとして)

- ・耕畜連携や耕作種目の集約、団地化については、農家だけでなく、地域を巻き込んだ検討が必要である。先進地を視察するべき。

#### (2) 遠野型労働力確保の可能性についての意見交換

- ・雇用の形で就農する人に話を聞くと現実には厳しいという声を聞く。
- ・希望をもって就農しても途中で限界を感じる日本の農業システムはおかしい。
- ・収穫期が重なると農家は大変である。地域にコントラクター(農作業委託)組織があるといい。
- ・限界集落という言葉聞いて久しいが、地域には後継者がいない状況である。
- ・農家だけでなく、地域、行政の力も借りてマッチングの仕組みができれば有益

になる。情報の共有が必要である。

(まとめとして)

- ・補助制度の活用についても水田交付金などの制約課題をいかにして解決していくか。今年の支援策について後日連絡したい。

(3)その他

- ・シカによる牧草被害が甚大。採取量は10年前の1/2
- ・外国人労働者（技能実習生）が3年で入れ替わるので、技術継続が途絶える。

7. 佐々木産業建設常任委員会委員長の意見

- ・畜産事業は遠野の農業生産額の6割を占める。畜産の方向性が遠野の農業を左右するといっても過言ではない。

- ・今の課題は農地の集約、団地化であり、農地利用適正化推進委員の役割が重要になる。貸しはがしによる適地化など農業委員会の関与が必要と考える。

8. 各参加団体の意見

(建設業協会の皆さん)

- ・畜産関係の実情を初めて聞いた。我々にできることがあれば力になりたい。